

## 第1回神埼町地域懇談会 議事録

日時：令和2年8月17日（月） 10：00～

場所：神埼市役所 3階 3-3会議室

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 委員紹介
4. 神埼市地域懇談会について

### 5. 議題

#### (1) 意見交換

#### ①新型コロナウイルス感染拡大防止のための新しい生活様式について

事務局：資料説明（省略）

委員：地区行事が緊急事態宣言を受けて中止となったが、緊急事態宣言が解除された後の行事については、地元の中でも意見が分かれた。市の方から、例えば区長や自治会に対して、コロナで一律行事を止めましょうといった指導があれば、自治会としても悩まずに済む。

もう一つは、三密状態であるとか、インドアにおける会食はダメといているにも関わらず、他の地区では神事行事の際に直会を行っていると聞く。8月5日には神埼市から感染者が出ていることもあり、市がもう少し音頭を取ってソフト面でも、地区のイベントを中止するという指導をしてもらいたい。

事務局：市では、国や県の情報も踏まえて、市主催のイベントの開催基準をホームページ上で示している。

確かに、開催内容・規模、イベントが抱えている過去の歴史等があると思う。

なかなか難しい点もあるが、地域の中で判断をいただきたい。

委員：開催にあたり、地区内で対立構図が出来ており、地区内でギスギスしている。

区長の立場から見れば、万が一地区内から感染者が出たらという責任問題の話にもなってくる。

開催判断をすべて任せるのではなく、ある程度市から指導をするべきではと思う。感染者は悪という風潮もあるので。

事務局：規模、人数いろいろあると思うが、開催について悩まれている場合は市へ相談いただきたい。

委員：私の地区では、神崎市区長会が開催された後、地区の運営委員会を開催している。そこで、市からの連絡事項や、各種災害等についての会議を行っている。今年はいろんな行事が中止・縮小され、伝統的な行事も辞めざるを得ないといった時期にきているが、それをどうするかという話になった。こういう状況だから、区長さんが中止すると言えばそれでいいという話でまとまったが、日頃、隣近所の皆さんといかにコミュニケーションを取りながら付き合い合っていくかということを中心にしようという話をした。ただ困っていることは、公役などができない状況なので、業者に依頼して対応した。今年に限らず、常々、地域の人と何らかのつながりがあるような生活を続けていってほしいと、地区内で話をしている。

委員：私の地区では、除草作業などもこれまで通り行っている。神崎市の新型コロナウイルス感染者は人口の割に少ないと感じる。これは、一人一人が三密対策を考えながら、感染しないよう気を付けた結果。皆さんいい関係でコロナと向き合っていると思う。

委員：地区内の除草作業については、交差点付近などは草が茂っていて特に危険なので、短時間で行うようにした。全体的な役員会は開催せず、5～6人の役員が集まって今後の話をした。お宮さん行事や直会もあるので、当分の間直会を止めるように決めた。やはり、それぞれの地域で独自性があるので、結論は地域で話し合っただけで決めたほうがいいと思う。

委員：私の地区で、私が知っている範囲では、自殺者が2名出ている。それも、若い人や40代くらいの方。日頃から、隣近所の人とコミュニケーションがとれていればと話していた。神崎市で感染者が出た際、市内のどこの方という噂が流れた。また、みやき町の感染者の時は、具体的にどの地区の方という噂まで流れた。区長、班長に責任を負わせるのではなく、一人ひとりがどうしたらよいか考えていくべきでは。感染に気を付けながらも最低限の伝統を尊重しなければならない。

委員：資料の中で、高齢者健康体操とあるが、コロナ対策に限らず、常々の活動として非常に重要だと考える。シルバー社交ダンス教室の会長と会った際、「我々は市民の健康増進に協力している」旨の言葉があった。

例えば、市の保健師が地元に飛び込んで、運動だけでなく健康という切り口で活動をしてもらえれば。

資料中のゲートキーパー養成講座について、養成の方法は？

自殺に関しては、プライベートなことが絡んでくる。家族、職場の同僚、地域の方、民生委員さんの役割が大きい。民生委員さん、区長さんの協力を得たうえで、地区全体で取り組むという姿勢でないと、行政の取り組みだけでは、減らすことも難しいと感じる。その点も含め、今後の方向性を伺いたい。

事務局：コロナの関係で、地区で行われている 100 歳体操などが感染防止のためできない状況を踏まえて、家庭でテレビを見ながら高齢者の方ができる体操をぶんぶんテレビで5月に放送した。今後も必要に応じて継続していきたい。

保健師の地域に飛び込んでの活動については、現在、地域へ出向いての健康相談、老人クラブでの活動など、お呼びがかかればいつでも訪問しているが、実際にすべての地区を回れていない。声を掛けていただければ、いつでも伺う。ゲートキーパーについては、資格要件はないので誰でもなれる。自殺は、家族、職場の同僚、地区の方など、特別な方でなく誰でもなりうるので、周りの方へ声掛けをしたり、いつもと違うことに気付いたり、周りの方へサポートをしてもらえればということで、養成講座を行っている。

現在は、民生委員、学校教員、商工会など、団体を中心に講座を実施しているが、5人以上のグループであれば可能なので、活用いただきたい。

委員：感染者が家庭内から出た場合の対応をどう考えているのか。

事務局：市で独自に宿泊施設を確保していない。県ではアパホテル等の確保をしている。現在の陽性者は、医療施設や県のホテルで隔離を行っている。

委員：現在は陽性者が少ないのでいいが、今後増加し、佐賀市のホテルなどが受け入れられない状況になったらというケースを考えておくべき。

委員：小中学校で感染者が出た場合の休校の基準はあるか。いつ感染者が出るかわからない状況なので、その場合学童も閉鎖となり家庭内で孤立する子どももいるので、事前に検討をしておいた方がいい。

また、福祉施設への三密対策などの指導について、把握しているか。

事務局：教育委員会や高齢障がい課で協議されていると思われる。

## 6. その他

委員：地区公民館の消毒液がなくなったので、補充はあるのか。

市のHPで周知と話があったが、市民のネット環境の状況を把握しているか。

事務局：HPの調査は行っていない。高齢者世帯やインターネット環境が整っていない世帯もあることは承知している。コロナに関する注意喚起や情報提供については、臨時のチラシを配布し対応している。HPや防災メールではコロナ情報のみならず災害等の情報も発信している。防災無線や防災メールの登録についても周知を進めている。

消毒液については、随時追加配布を行っている。

## 7. 閉会